

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成 11 年 7 月期)

水質概要

7 月期の水温は、表 1 に示すとおり平年値（上層 26.8、中層 26.3、下層 26.1）に比べて平年並であった。図 1 に示すように、7 月中旬から下旬では上旬に比べ、5 ほど上昇が見られた。また、水深による顕著な差異は見られなかった。

7 月期の塩分は、表 1 に示すとおり平年値（上層 4.7psu、中層 6.7psu、下層 8.6psu）に比べて、上層、中層、下層ともに 1~3psu 程度低い値を示していた。また、7 月期は 20psu 以上の高塩分水の流入が 7 月 24 日~25 日にかけての 1 回しか見られず、高塩分水の流入はほとんど見られなかった。7 月期は、気圧の変動と高塩分水の流入に関係は見られなかった（図 2 参照）。この理由として、上旬から中旬にかけての雨量の増加により、宍道湖水位が高くなり、中海からの高塩分水の流入が妨げられたためと考えられる。

7 月期の溶存酸素濃度は、表 1 に示すとおり上層では 3.7~5.2mg/l 前後と高く、中層および下層では 1~3mg/l 程度低かった。一方、図 1 に示すように上層ではほぼ 4mg/l 以上で変動していた。中層および下層では、20 psu 以上の高塩分水の流入時に、1mg/l 以下まで急激な低下が見られた。

表 1 7 月期の水質概要

		水温 ()	塩分 (PSU)	溶存酸素 濃度 (mg/l)
上旬	上層	22.8	3.3	5.2
	中層	22.8	3.4	4.1
	下層	22.8	3.8	4.6
中旬	上層	25	3.4	4.1
	中層	25	3.7	2.6
	下層	25.1	4.3	3
下旬	上層	27.3	4.1	3.7
	中層	27.1	5.2	1.8
	下層	27.3	6.2	2.2
月間平均 (7月)	上層	25.1	3.7	4.3
	中層	25	4.2	2.8
	下層	25.1	4.8	3.2

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994 年 3 月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

水質

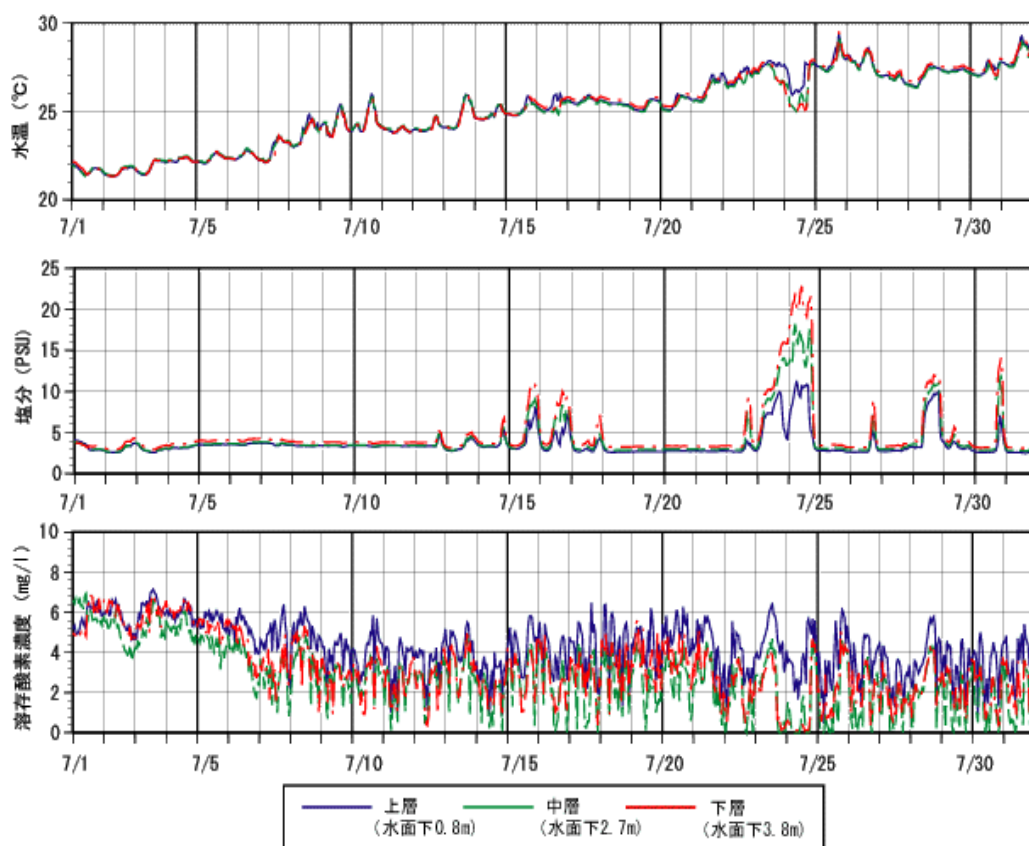


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

気象概況

7月期は、表2に示すとおり、平均気温 24.5（ 平年値 25.2 ）であり、ほぼ平年と比較して若干低かった。

図2に示すように、7月期の気圧変動は、顕著な気圧の低下が見られなかった。

平均気圧 1006hPa は、平年値 1008 hPa と比較して若干低かった。

表2に示すとおり、7月期の日射量は、上旬から下旬ではおおむね 0.10MJ/m² 以上で変動していたが、中旬の気圧の低下が見られる期間では、0.10MJ/m² 以下の日が頻繁に見られた。（7月平均値：0.10MJ/m²、6月平均値 0.10MJ/m²）

7月期の風向・風速は、平均風速 2.3m/sec、風向は東（平年値 3.2m/sec、西風）であり、平年並であった。

表2 7月期の気象概要

	気温 ($^{\circ}$ C)	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m 2)
上旬	21.9	1007	2.7	南東	0.118
中旬	23.3	1003	2.1	南東	0.087
下旬	28	1008	2.2	北	0.096
月間平均 (7月)	24.5	1006	2.3	東	0.1

(平年値は、平成11年気象の暦(山陰版)、(財)日本気象協会中国センターより引用)

(表中の数字は、平均値を示す)

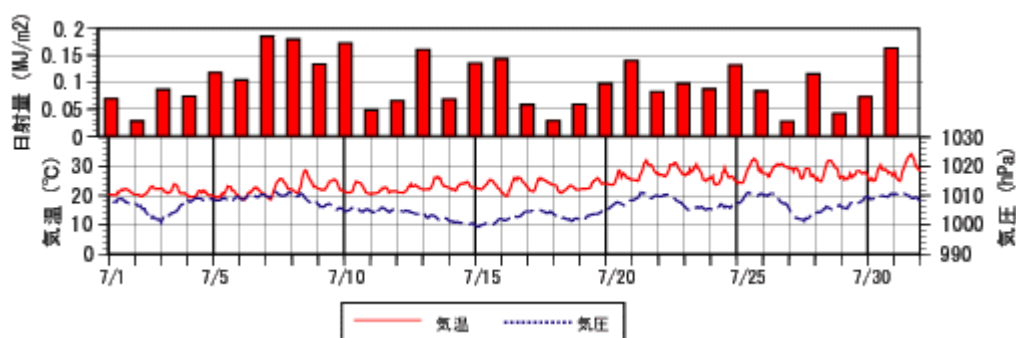


図2 気温・気圧・日射量の時系列変化

状況

7月期の平均東方流速は、上層 11.2cm/sec、中層 27.6cm/sec、下層 24.3cm/sec であった。また、図3に示すように、7月期全体として、大橋川の流れは、上旬は、宍道湖から中海に向かう流れが卓越し、中旬以降は、潮汐干満による往復流が卓越していた。

これは、上旬では雨量の増加により、宍道湖水位が上昇したためと考えられる。

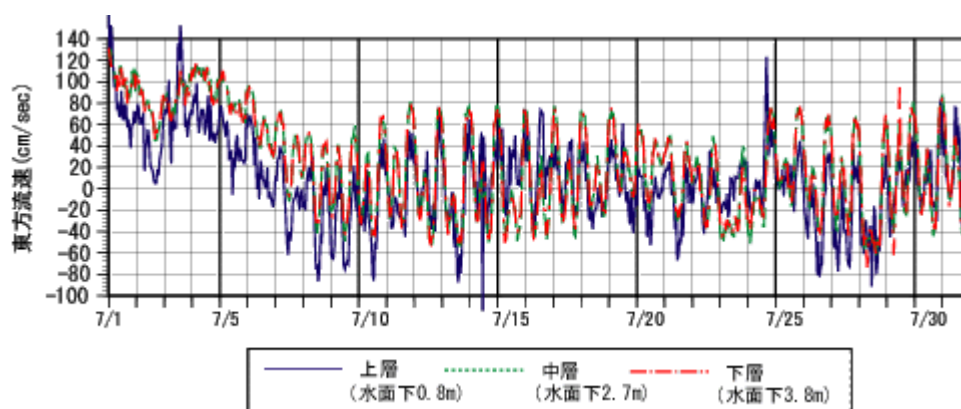


図3 東方流速の時系列変化